派遣留学生帰国報告書

＊帰国（復学）後の情報を入力してください

記入日	2020/2/29
所属学部・研究科・学府	文学部
所属学科・専攻	人文学科国際言語文化学コース

1．留学先について

留学先大学名	ドイツ・ハイデルベルク大学														
留学先所属学部等	哲学科														
留学期間	出発日	2019/8/6	入学日	2019/9/4	修了日	2020/2/8	帰国日	2020/2/26							
住居	○	大学(紹介)の寮・アパート		民間アパート		その他（　　）									
	通学時間	約30分		On campus											
	通学方法	バスと徒歩													
	居室スペース	○	個室		（　　）人部屋		その他（　　）								
	共有スペース		完全個室	○	キッチン	○	トイレ	○	バス		リビング		その他（　　）		
食事	自炊　80 %	学食　20 %	外食　0 %	その他　0 %（　　）											
保険	海外旅行保険（名称）	tabihoたびほ													
	派遣先大学指定の保険(名称)														□強制加入
	その他	ドイツの健康保険：Techniker Krankenkasse													
渡航ルート	ex.）成田⇔シカゴ（飛行機）⇔ウィスコンシン（電車）														
	羽田 ⇔	ロンドン（飛行機）	⇔ フランクフルト（飛行機）												
	⇔ ハイデルベルク（電車）														

2. 留学にかかった費用について

総費用	1,300,000 円

出どころ							
自費		貯金 円	○	アルバイト 500,000 円		その他 円	
援助	○	両親 320,000 円		家族・親戚 円		その他 円	
奨学金	○	JASSO 480,000 円		その他名称（ ） 円			
その他		円		その他（ ） 円			

2－1. 財政管理の方法

渡航時	○	現金 30,000 円		その他（ ） 円		
留学中	○	海外送金		キャッシング		その他（ ）

2－2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	Transferwise（日本から海外送金）、銀行振込
住居にかかった費用	銀行引き落とし、クレジットカード、ドイツの銀行のキャッシュカード（デビットカードになっている）
その他	

2－3. 内訳

費目	外貨金額 通貨単位		円貨金額	
渡航費(往復)			188,000	円
海外旅行保険			85,000	円
OSSMA			20,000	円
査証・在留許可証	ユーロ	60	7,000	円
住居	ユーロ	2,000	240,000	円
食費	ユーロ	2,500	300,000	円
通学に要する交通費	ユーロ	250	30,000	円
教科書、教材費	ユーロ	80	10,000	円
その他大学に支払った経費	ユーロ	100	10,000	円
光熱費		家賃込みのためなし		円
その他 （ラジオ受信料）	ユーロ	75	10,000	円
その他 （ 旅行費 ）			400,000	円
その他 （ ）				円
その他 （ ）				円

３. 学業面

履修科目名	種類ex.正規、聴講	単位数	単位互換認定申請の有無			
1 Deutschkurs B2.2(a)	正規	/		有	○	無
2 Kreatives SchreibenⅢ	正規	/		有	○	無
3 Geschichtsmächtige Tage im 20. Jahrhundert	聴講	/		有	○	無
4				有		無
5				有		無
6				有		無
7				有		無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

３－１. 授業科目の選択、登録方法

1,2の授業は、学期の始めにある登録会のようなものに参加し、コーディネーターとの相談ののち履修が許可されるというものでした。
3は大学の講義で、初回出席時に回ってきた紙に名前を書くとそれが登録になるという形式でした。

３－２. 授業内容、方法に関して

1は普通のレベル別ドイツ語コースで、内容は日本の会話の授業とほとんど変わりませんでした。
2はB2～C1レベル向けのドイツ語の授業で、短い物語や詩をドイツ語で書くという内容でした。講師は、実際に小説家として活動していらっしゃる方でした。授業名を英語に訳すと"creative writing"となりますが、その名のとおりクリエイティビティが求められました。
3の講義は、「20世紀における歴史的な転換点」をテーマに行われました。形式は、教授が話し、学生がそれを聞くといういたって普通のものでした。講義のホールは、学生ではないと思われる年配の方が半分以上を占めていました。それもあってか期末試験は、希望者のみ行うという形式のようでした。私は単位互換する予定がなかったので、聴講で、試験も受けませんでした。

３－３. 語学力について

2月にTestDaFというドイツ語の語学試験を受けました。それに向けてかなり勉強したので、それもあって語学力はかなり伸びたと思います。3月末に結果が出て、4技能ですべて4以上をとることができました（TestDaFにおいて4技能すべて4以上＝ドイツの大学に入学できる基準）。
英語は、留学生同士での会話など使おうと思えば使う機会はありました。ですが私はずっとドイツ語で話すあまり英語がどんどん話せなくなっていったので、もうとりあえず先にドイツ語を伸ばそうと思い英語はほとんど話しませんでした。

３－４. 図書館など学内施設について

学内施設は、図書館と学生食堂をよく利用していました。図書館は街のいろいろなところにありましたが、よく利用していたのは旧市街にあるHauptbibliothekと寮の近くのNeuenheimer Feldの図書館の2つです。特に図書館のなかにあるグループ学習室は、TestDaFの対策のため友人と頻繁に利用していました。

３－５. その他

４. 生活面

４－１. 住居について

私の寮は築6年で、とてもきれいでした。断熱がしっかりしており、床暖房はありましたが冬でもほとんど使わずに済みました。壁やドアも頑丈で分厚かったので、防音もちゃんとしていました。旧市街に住んでいる人は建物が古いと言っていたので、新しい地区の寮を希望してよかったです。

４－２. 食生活について

食事は大体寮で自炊していました。わざわざ食事のためだけに家から出るのが面倒なのと、学生食堂の食事は味が濃かったりあまりおいしくなかったりするからです。ただ自炊は皿を洗うまで含めるとかなり時間がかかってしまうので、効率はよくないなと感じます。

４－３. インターネット環境、携帯電話について

寮にはWi-Fiがなく、LANケーブルを差すタイプでした。ですのでまずパソコンをインターネットにつなぎ、パソコンからWi-Fiを出してそれをスマホで捕まえるというやり方をとっていました。Wi-Fiが必要なときにはいつも最初にパソコンを立ち上げなければならなかったので、正直面倒でした。

４－４. 服装について

途中で冬靴を買い足しました。冬は足の裏から冷えてくるので、普通のスニーカーだと厳しいと思います。毎年日本でしもやけになっていたのですが、今年は冬靴のおかげでならずに済みました。

４－５. 健康管理について

滞在中3回風邪をひきました。咳が止まらない時期もありましたが、ドイツ流「ハーブティーで治す」方法を試してみました。特に咳用のお茶はまずくて仕方がなかったのですが、我慢して飲んでいたら意外と効いた気がします。風邪用ハーブティーは、ROSSMANNやdmなどで"Arzneitee"という品目で、1箱70セントほどで買えます。

４－６. 保険、OSSMAの利用について

利用しませんでした。

４－７. 課外活動について

週末に近くの街に出かけたり、誕生日には友人を呼んでパーティーをやったりしました。関西出身の友人がたこやき器を持っていたので、たこ焼きパーティーをやったこともありました。

４－８. 学外のコミュニティとの交流について

交流は大体学内の人に限られていたと思います。友達の友達ということで学外の人と会うことはありました。

４－９. 日本から持参してよかったもの

ウェイパー：日本の中華風調味料なので、ドイツのアジアスーパーには売っていません。なんにでも使えるので本当に持って行ってよかったです。
柄付き折り紙：帰国直前、お世話になった人に折り紙で花くす玉を作ってあげたら、「これが手作りだなんて信じられない！」とものすごく喜んでもらえました。ドイツでは贈り物において手作りがかなりもてはやされるようです。
歯ブラシ：ドイツの歯ブラシはヘッドが大きいものばかりなので、日本の小さい歯ブラシを持って行ってよかったです。

４－１０. 日本から持参したが不要だったもの

ティッシュ：日本のティッシュは質が良い、と聞いてもっていきましたが、むしろドイツのティッシュのほうが分厚くて頼りがいがある？気がします。ポケットティッシュも同じです。
リップクリーム：数本持って行きましたが、ドイツのでよかったのでは？と思います。
日本円：いざというときに必要になるかもと思って1万円くらい持っていましたが、必要なかったです。

４－１１. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

ドイツ人は本当に親切だと感じます。街中で困っていると、聞く前に誰かが助けてくれます。別の報告書にも書きましたが、日本から遊びに来た友人に私が一日だけ付き添えなかった際、友人たちは街行くドイツ人に何度も助けられながら目的地にたどり着いたそうです。

４－１２. 余暇の過ごし方

旅行

【イギリス・ロンドン（観光）】2019年8月（7日間）、約10万円
【フランス・パリ（観光）】2019年8月（4日間）、約3万円
【チェコ・プラハ（観光）】2019年8月（5日間）、約3万円
【アイスランド・レイキャビク＆ヴィーク（観光）】2019年8月（7日間）、約8万円
【ドイツ・ニュルンベルク（観光）】2019年9月（3日間）、約2万円
【クロアチア・ドゥブロヴニク＆イタリア・ヴェネツィア（観光）】2019年9月（7日間）、約8万円
【チェコ・プラハ（観光）】2019年12月（3日間）、約2万円
【ドイツ・ドレスデン（観光）】2019年12月（2日間）、約2万円
【ドイツ・ハノーファー＆ハンブルク＆ブラウンシュヴァイク＆ベルリン＆クヴェードリンブルク（観光・研究）】2020年1月（6日間）、約7万円
【ドイツ・ミュンヘン（観光）】2020年2月（2日間）、約2万円
【ドイツ・ネルトリンゲン（観光）】2020年2月（1日間）、約1万円

その他　＊気分転換やストレス発散法など。

気分転換に、週末には近くの街に出かけていました。特に、中世の街並みが残る小さな街を選んで行っていました。ドイツ人も知らないようなところを発掘して行くのが楽しかったです。ハイデルベルクから近いところだと、LadenburgやWeinheimというところがおすすめです。

５．その他

５－１．留学先大学について

ハイデルベルク大学は、留学生に対してのサポートが手厚い大学だと感じます。9月の到着後からすぐにいろいろなオリエンテーションがあり、そこで住民登録の方法から滞在許可の取り方まで、一通りやらなければならないこととその流れを教えてくれます。留学生に対してとても親切な大学だと思います。
またハイデルベルク大学には日本学科（Japanologie）があるので、ドイツ人の友人やタンデムパートナーを作りやすいと思います。

５－２．留学希望者へのアドバイス

現地に着いた後の話になりますが、いろいろな手続きは早め早めに行うことを意識するとよいと思います。私の日本人の友人で2人ほど、私と同時期に着いたのにまだ滞在許可を取れていない人がいます（去年の9月に到着し、もう3月です）。2人は滞在許可を持っていないので、春休みにもかかわらず国外旅行ができないという状態です。
特に現地到着後から始まる各種手続きは、ほぼすべて滞在許可取得という目的につながっています。私は9月の前半までですべての手続きを終わらせ、10月初めには滞在許可をもらうことができました。ドイツの外国人局はただでさえ仕事が遅いと有名なので、ダラダラしていると滞在許可証受け取りの予約が取れなくなったりで、本当に取得が遅くなってしまいます。手続き系はすべて〇日までに終わらせる！と決めて焦って行うくらいのほうがよいと思います。

５－３．留学を終えて

留学をして一番よかったのは、日本とドイツ、2つの価値観に触れられたことです。便利ではあるものの働く人が追い詰められていく日本、対してサービスの質はよくないものの働く人の人権が確保されているドイツ、もちろんこの例だけで両国を言い表せるわけではありません。そして、両者ともどこに重きを置くかという話であって、どちらが良い悪いとはいえないと思います。そして、価値観だけで片付けられる話ではないということも承知しています。しかしながら、2つの価値観を知り、それを比較することができたのはとても有益だったと思います。
日本に帰国して、分野問わずサービスの良さを改めて感じています。ドイツではありえないほど質の高いサービスです。しかしながら、その質の高いサービスは、多かれ少なかれ働く人たちの犠牲の上に成り立っています。どちらが良いか一概には言えませんが、2年ほど接客業のアルバイトを経験した身としては、サービスの質と働く人の犠牲という二者のバランスをもっと改善すべきではないかとずっと思っていました。仮に日本よりも先にドイツを知っていたら、日本のサービスはとてもいい、ドイツもこうすべきだ、と言っていたかもしれません。しかし最初に日本、次にドイツの価値観を知った人間として、そして一度サービスを提供する側にまわった人間として、私の価値観はより確固たるものとなりました。これも2つの価値観に触れなければ起こりえなかったことだと思います。